

大野城市民読書活動推進計画 施策進捗状況シート

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(1) 乳幼児			
施策の方向性	親子で読書を楽しむことで、語彙力や想像力、集中力を養うとともに親子のコミュニケーションを深めます。そのために家庭での読書や読み聞かせの大切さについて保護者へ啓発を行い、親子での読書活動の推進を図ります。また、図書館及び地域貸出文庫等で、絵本の読み聞かせや貸出を行います。 共働き世帯が増加し、保護者と一緒に読書することが難しい乳幼児に対しても、保育所(園)・幼稚園等において読み聞かせを実施し、全ての子どもが本に出会う機会を提供します。			
主な取組	①絵本の紹介と保護者への啓発			
	②読み聞かせの実施			
	③絵本の貸出の実施			
成果指標	家庭での読み聞かせ実施率	策定時点	目標値(R9)	
		86.7%	90.0%	
D 令和7年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	「Babyぱらら」「こぱらら」の発行	年間発行回数	13回	12回
	ブックスタート事業	年間実施回数	132回	132回
	図書館での対象年齢に応じたおはなし会	年間実施回数	148回	90回
主な取組の実施状況及び今後の方針	①絵本の紹介と保護者への啓発		達成状況	
	◆「Babyぱらら」と「こぱらら」は、対象年齢に合わせた書評やイベント情報を掲載した冊子で、公共施設や学校などで配布されており、本との新しい出会いを提供するきっかけとなっている。次年度以降は、デザインの見直しやテーマの工夫を進め、新しい視点を取り入れることで、さらに魅力的な内容を目指していく。 ◆絵本特集コーナーでは、①様々な視点をテーマにした特集、②季節に応じた特集の2コーナーをつくり、本を紹介した。この取り組みが貸出促進に繋がっているため、今後も引き続き実施していく。 ◆絵本ライブラリーや子育て講習会などを通じて、親子で絵本に触れる機会を提供した。今後も絵本への関心を一層高める活動を継続していく。		②期待どおり	
	②読み聞かせの推進		達成状況	
	◆ブックスタート事業では、絵本を通じて親子が触れ合うきっかけを提供しており、3歳児健診時のアンケートでは参加者の85%がその効果を実感している。今後は、読み聞かせの方法や絵本の配布方法や周知方法を見直しながら、ブックスタートへの参加率向上を目指していく。		②期待どおり	

	◆まどかぴあ図書館では、定例のおはなし会、季節のスペシャルおはなし会など、赤ちゃん向けや幼児から小学生向けのおはなし会を開催し、年間で計2,352人が参加した。今後もおはなし会を継続して実施し、読書の楽しさを広く伝える機会を提供していく。 ◆「ぞうさんひろば」や「子育て応援・親子サロン事業」では、延べ約1万9千人が利用し、絵本を通じて親子の触れ合いの場を提供した。今後は、事業実施にあたり利用者が参加しやすい時間帯や参加方法を検討するとともに、「おおのじょう子育てナビ」（母子健康手帳アプリ）を活用して事業の周知に努めていく。 ◆子ども療育支援センターの集団療育では、保育士による読み聞かせや絵本の配架を通じて、子どもが本に関心を持つきっかけを提供している。また、本取組は親子のコミュニケーションを深めることにも繋がっており、今後も引き続き継続していく。 ◆保育園等全園で継続的な読み聞かせを実施しており、今後も継続していく。	
	③絵本の貸出の実施	達成状況
	◆キッズタイム事業について、令和6年度に実施した際に、参加者が2～3組、別日程では参加者がいない状況もあり、来館時間帯を分けることでニーズに対応することは難しいことがわかったため、令和7年度は実施を見送っている。 ◆保育所や幼稚園での絵本の貸出について、全園の半数程度での実施に留まっている。理由は、「絵本の管理が難しい」とのことより、絵本の管理手法の説明など、園が利用しやすい環境を整えていく。 ◆絵本の購入等は各園で計画的に進められている。今後も、読書しやすい環境の整備と図書の更新等を検討し、読書環境の充実を推進していく。 ◆れいわ子ども情報センターにて図書の無料貸出を実施し、読書活動につながる場を提供するとともに、今後もより利用しやすい環境整備を行っていく。	②期待どおり ※キッズタイム事業は未実施となったものの、実施可能な園やれいわ子ども情報センターで貸出を行っていること、各園で絵本の貸出等が行われていることから、期待どおりとした。
C 評価		
推進委員会 評価		
検討が 必要な事項		
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(2) 小・中学生			
施策の方向性	小学生は読書のきっかけづくりや読書の習慣の基礎をつくる重要な時期です。中学生になると、感動や共感を得たり、将来に役立つ本等を選んで読んだりするようになる一方で、読む子どもと読まない子どもの二極化が著しくなります。そのため、学齢が上がっても読書に対する興味・関心を持ち続けることができるように、子どもの主体的な活動や子どもたち同士で読書意欲を高め合う取組を行います。 また、家庭、地域、図書館、学校等、社会全体で読書活動を広げていくことができるよう、保護者への啓発及び家庭・学校以外の身近な場所でも子どもたちが読書に親しめる取組を行います。			
主な取組	①本の紹介		②読み聞かせ等の推進	
	③読書時間の確保		④読書活動の促進	
	⑤読書目標の設定		⑥調べ学習の促進	
	⑦保護者への啓発			
成果指標			策定時点	目標値(R9)
	1 か月の読書率 ・ 小学2年生		94.2%	98.0%
	1 か月の読書率 ・ 小学5年生		93.7%	98.0%
	1 か月の読書率 ・ 中学2年生		70.7%	75.0%
D 令和7年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	小学生読書リーダーの養成	年間講座回数	基礎講座2回 交流会1回	基礎講座3回 交流会1回
	図書館利用案内とブックリストの配布	発行ジャンル数	5ジャンル	6ジャンル
	「自由研究ひらめきカード」の発行	発行ジャンル数	25ジャンル	25ジャンル
主な取組の実施状況及び今後の方針	①本の紹介		達成状況	
	◆学校図書館司書が中心となっておすすめ本コーナーを設置し、季節や行事、授業にちなんだ本や学年ごとのおすすめの本を展示した。また、委員会活動時に作成したPOPを掲示し、児童のおすすめの本を展示した。準備時間やスペースの制約により展示更新の頻度には課題が残るものの、今後もこれらの取り組みを継続していく。 ◆まどかぴあ図書館において、幼児から小学生までを対象とするおすすめ本紹介冊子「こばらら」を年7回発行し、幼児・小学校低・中・高学年の4段階の対象年齢に合わせた読み物と調べ物の本8点を紹介している。昨年度から引き続き、大野城市内の学校司書に書評を募り、秋の特別号を発行した。 また、10代向けのおすすめ本の紹介や、まどかぴあ図書館のイベント情報などを掲載する「わいわいぱらら」は年5回発行し、特別号では昨年に引き続き各中学校の司書に加え、筑紫中央高		②期待どおり	

	校の司書のおすすめ本も新たに掲載した。今後も中学生の興味を引く選書・テーマ設定で魅力的な紙面づくりに努めていく。	
	②読み聞かせ等の推進	達成状況
	◆学校では、担任教諭や学校司書、読書ボランティアによる読み聞かせやおはなし会、ブックトークなどを定期的に行った。多くのランドセルクラブでは、読書ボランティアと連携し、読み聞かせを行った。いずれも本に触れ合う機会を提供でき、本の貸出回数の増にもつながっている。ただし、<u>時制の変更や授業数の関係で実施回数は減少</u>している。また、<u>ボランティアの人数の確保が課題になっている学校もある</u>。ボランティアの不足については、令和7年度に立ち上がった「読書ボランティアネットワーク」を活用し、他団体と連携し取り組んでいく。 ◆まどかぴあ図書館では、赤ちゃん向け54回、幼児～小学生向け94回のおはなし会を実施し、計2,352人が参加した。<u>令和7年度は小学生低学年向けおはなし会「小学生タイム」を実施した</u>。今後、小学生タイムの認知度向上と開催日を増やす検討していく。 ◆地域貸出文庫28か所のうち、24か所で読み聞かせを実施した。読み聞かせ単独の開催ではなく、他の公民館のイベントにあわせて読み聞かせを開催し、多くの子どもに読書機会の提供を行うことができた。	②期待どおり
	③読書時間の確保	達成状況
	◆各学校は朝の会や帰りの会において読書タイムを設定したり、クラスや学年ごとに図書室の使用割を定め、授業時間を読書時間に充てたりすることで、読書の機会と時間の確保に努めた。しかし、<u>時制の変更などから学校での読書時間は減少しつつある</u>。今後は、学校の実情に合わせ読書時間を継続して確保するとともに、「隙間時間」の図書室の利用を促していく。 ◆各学校で「読書まつり」や図書委員会と読書リーダーを中心としたイベントの実施や、POPやおすすめ本コーナーなど展示の工夫、校内放送を活用するなど、児童生徒に働きかけを行った。図書委員の負担を考慮した上で、今後もイベント等を実施し、図書室の利用促進を行っていく。	②期待どおり ※学校での読書時間は減少しつつあるが、市内の学校図書室の貸出数と貸出人数は増加しているため、期待どおりとした。
	④読書活動の促進	達成状況
	◆夏休み期間中、まどかぴあ図書館と学校図書室の司書の指導のもと、基礎講座や実践活動、交流会を実施し、読書リーダーによる活動を実施した。しかし、司書への負担増が課題となっており、負担軽減を図るが、読み聞かせなど重要な読書活動の質と時間は維持していく。 ◆赤ちゃん向け、幼児向け（改訂）、小学1～2年生向け、小学3～4年生向け（新規）の4種のブックリストと夏休み前の小学1年	

	生に向けた1種のブックリストと利用案内を配布した。未作成の小学5～6年生向けおよびYA向けのブックリストについて、順次作成を進めていく。 ◆<u>学校において、「読書まつり」や図書委員会と読書リーダーを中心としたイベントの実施、POPやおすすめ本コーナーなど、児童生徒が本に興味を持つよう創意工夫を凝らした啓発活動を持続的にを行い、学校図書の貸出数と図書館利用者数が増加した。</u>今後も、学校の実情に合わせ、活動時期を調整しながら取り組みを継続・充実させていく。 ◆まどかぴあ図書館において、図書館子どもまつり等のイベントを実施した。GW中の来館者が少ないことから、開催期間を短縮し、内容の充実での参加者増を目指したが、参加者は減少した。より多くの方に参加してもらえるよう、イベント全体の開催期間を検討し改善を図っていく。 ◆まどかぴあ図書館において地域貸出文庫への大型絵本貸出やプログラム相談を行った。また、コミュニティセンターでは小学生向け読み聞かせ会を4地区で計8回実施した。本取組は3年目となり、リピーターも増え、定着してきている。今後も者と満足度の向上に向け内容を検討しながら読み聞かせを継続していく。 ◆学校司書により、教職員の依頼に応じた資料準備や児童生徒へのレファレンスを通じて読書を支援した。学校司書と教職員の連携不足やレファレンスサービスの認知度の低さが課題となっている学校もあるため、まどかぴあ図書館、他の学校間の連携強化および学校の教員間での連携強化を図っていく。 ◆学校において、司書等の支援のもと、図書委員を中心に児童生徒が主体となって読み聞かせや本の紹介などのイベントの企画・運営を行うことで子ども同士が読書意欲を高める機会が増えた。今後は図書委員、読書リーダー、図書司書の負担を考慮しながら、活動を継続していく。 ◆まどかぴあ図書館において、中学生の興味を引く月替わり特集展示やInstagramでの新着本紹介で、読書への興味を持続させる支援を実施した。また、案内POPの設置でPR効果が上がった。YA世代の利用者と交流を深める企画を進めていく。	②期待どおり ※読書リーダー養成の講座回数は目標の3分の2を実施し、ほぼ期待通り実施した。ブックリスト配布は目標6ジャンルに対し、5ジャンルの配布を行ったため、ほぼ期待どおりとした。
	⑤読書目標の設定	達成状況
	◆読書目標未設定の学校が多かったが、貸出冊数の掲示や「読書貯金通帳」、多読者への表彰などを通じて読書量を可視化し、生徒の読書意欲を向上させる取り組みを実施した。しかし、クラス間に読書量の差が見られたため、今後はこれらの取り組みを継続するとともに、教職員からの積極的な声かけを促すことで、クラス全体の読書意欲向上を目指していく。	②期待どおり ※読書目標未設定の学校が一部あるものの学校全体の図書貸出数と利用者数が増加しているため、期待どおりとした。

	⑥調べ学習の促進	達成状況
	◆ <u>まどかぴあ図書館において作成している自由研究ひらめきカードについて、プログラミングや植物など4種類のテーマを追加し、総数25種類となり、目標値の21種類を上回った。新しく発行したものは手に取られやすいが、過去発行したものは、棚の上部にあるため、目につきづらい。今後もより手に取りやすいテーマを選定するとともに、掲示方法を工夫していく。</u> ◆学校図書室への新聞配架は小学校9校、中学校5校で実施されたが、インターネット普及の影響で利用する児童生徒は少なかった。このため、今後は生徒の興味を引く記事の掲示やオリエンテーションの際に紹介するなどして、周知を強化していく。 ◆まどかぴあ図書館において、学校の貸出傾向を分析し、授業用資料の購入などで学校の調べ学習を支援したものの、同時期の複数校からの依頼により冊数調整が必要となることがあった。今後は、調べ学習に活用できる本を積極的に購入し、学校からの資料貸出要請に対応できる体制を整備していく。	②期待どおり
	⑦保護者への啓発	達成状況
	◆学校図書室において図書だよりを発行し、保護者に向けた記事も掲載し、児童生徒だけでなく保護者への啓発活動を実施した。また、一部学校において、授業参観やPTA活動時に読書活動への働きかけを行った。今後は各学校の実情に応じた継続的な啓発活動に取り組んでいく。	②期待どおり
C 評価		
推進委員会 評価		
検討が 必要な事項		
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(3) 高校生以上の学生			
施策の方向性	高校や大学等に通う学生時代は、将来や自分の人生について特に考えをめぐらせる時期であるとともに、読書から離れやすい時期でもあります。学生が読書に興味を持ち、必要な情報を得たり今後のライフスタイルの参考にできる本と出会えるよう、積極的な情報発信及び支援を行います。また、学生の読書率を高めるため、読書の魅力を共有できる仲間との出会いをつくる取組を行います。			
主な取組	①本の紹介			
	②読書活動の促進			
	③調べ学習の促進			
成果指標	1 か月の読書率	策定時点	目標値(R9)	
		77.8%	80.0%	
D 令和7年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	おすすめ本や新着図書情報の提供	年間発信回数	20回	28回
主な取組の実施状況及び今後の方針	①本の紹介		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館においてインスタグラムで月1回の特集案内と新刊おすすめの本に関する投稿を計20回投稿した。投稿作業に時間を要したため、投稿頻度が少なくなった。しかし、インスタグラムを活用している利用者は定着し、一定の閲覧者を得ることができているため、今後は投稿作業方法の見直しを行い、投稿数を増やしていく。		③期待以下 ※インスタグラムでの年間発信回数は目標値を下回った。	
	◆まどかぴあ図書館において、「わいわいぱらら」を年5回、また、書評を中心としたカラーポスターと冊子を筑紫中央高校へ配布した。 <u>令和7年度は特別号で同校の司書によるおすすめ本を執筆してもらったことで、校内での認知度の向上に繋がった。</u> 今後は、高校生が興味を持つ選書やテーマ設定を行い、魅力的な紙面づくりに注力していく。			
	②読書活動の促進		達成状況	
◆まどかぴあ図書館では昨年を上回る施設見学の希望があり、特に小学2年生の生活科の課外授業として毎回100名前後の来館があった。中学校は職場体験、大学生の実数受け入れも行った。今後は来館した児童生徒に対し、将来の図書館利用へと繋がるような魅力的な紹介を工夫して行っていく。		②期待どおり		
◆中高生に人気のシリーズの受入や、図書館インスタグラムで特集・新着資料の紹介を行った。人気シリーズ本は受入当初より、高校生以上を中心とした利用が続いている。筑紫中央高校や職場体験に来た高校生と合同でYAの読書推進にかかわる企画を検討したい。				

	③調べ学習の促進	達成状況
	◆近隣の高校生が調べ学習等で来館した際、資料やYAコーナーの案内を行い、中高生向けの資料を集めた棚の認知度向上につながった。今後は、中高生向けのおすすめ本や調べ学習に活用できる資料を載せたブックリスト等を作成したい。	②期待どおり
C 評価		
推進委員会 評価		
検討が 必要な事項		
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(4) 社会人			
施策の方向性	仕事や子育て等、ライフステージに応じて読書に親しめるよう、市民のニーズを把握し、様々な本との出会いの場を提供するとともに、日常生活における課題解決等に役立てられるよう支援します。			
主な取組	①読書活動の促進			
	②生涯学習の促進			
成果指標	読書が好きな人の割合	策定時点	目標値(R9)	
		79.6%	82.0%	
D 令和7年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	パスファインダーの発行	発行したジャンル数	5	5
主な取組の実施状況及び今後の方針	①読書活動の促進		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では、読書推進のため、ワークショップ、図書館おみくじなど企画し、普段手に取らない本に触れる機会を提供した。 ◆ふるさと館において、蔵書検索サービス（総閲覧数32,372回）と常駐スタッフにより図書利用をサポートした。ふるさと館の情報検索システムの情報を随時更新し、蔵書検索のさらなる充実を図る。また、大野城市の歴史・文化のほか、特別展・講座・講演会のテーマに応じた図書が閲覧できるよう周知する。		②期待どおり	
	②生涯学習の促進		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、よく利用者から問合せがある内容から選出し、令和7年度春にパスファインダーを発行し、しらべものカウンター付近に設置した。 ◆ふるさとラボにおいて、目加田文庫や郷土資料といった専門性の高い図書を配架し、常駐スタッフが市民の学習を支援した。貴重資料の特別利用による成果が論文として公表されるなど実績があり、今後も市民の歴史・文化学習への意欲向上に向けた取り組みを継続する。		②期待どおり	
C 評価				
推進委員会評価				
検討が必要な事項				
A 改善				
改善結果				

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(5) 高齢者			
施策の方向性	高齢者が本に親しむため、利用しやすい環境づくりやサポートに取り組むとともに、読書を通じた学びやボランティア活動等への参加を促進する取組を行います。			
主な取組	①読書活動の促進			
	②生涯学習の促進			
成果指標	読書が好きな人の割合	策定時点	目標値(R9)	
		80.6%	83.0%	
D 令和7年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	はつらつセカンドライフコーナーの資料充実	年間受入冊数	191冊	150冊
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	①読書活動の促進		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、はつらつセカンドライフコーナーの資料の充実を進め、年間目標の150冊を達成した。また、需要の多さから、はつらつセカンドライフコーナーの資料を移動図書館車の恒常的な積載資料に加えた。利用者の実態に合わせ、引き続き対象を60代以上に見直し、需要を意識しつつポジティブかつ「セカンドライフ」を考えられる資料を収集していく。		①効果が期待以上 ※目標冊数を超えるはつらつセカンドライフコーナーの資料の充実を実施できたことから、期待以上とした。	
	◆ふるさと館において、蔵書検索サービス（総閲覧数32,372回）と常駐スタッフで図書へのアクセスを支援し、読書のきっかけをつくることできた。今後も情報検索システムの更新で蔵書検索の充実を図るとともに、特別展などテーマに応じた図書の周知を強化していく。			
	◆電子図書館の利用方法に関する講座は、集客の難しさから単独での実施は見送っている。しかし、まどかぴあ図書館の通常業務のなかでカード登録時やお尋ね時に案内を実施しており、今後も引き続き利用者からの問合せに対応していく。			
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	②生涯学習の促進		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、よく利用者から問合せがある内容から選出し、令和7年度春にパスファインダーを発行し、しらべものカウンター付近に設置した。		②期待どおり	
	◆ふるさとラボにおいて、目加田文庫や郷土資料といった専門性の高い図書を配架し、常駐スタッフが市民の学習を支援した。貴重資料の特別利用による成果が論文として公表されるなど実績があり、今後も市民の歴史・文化学習への意欲向上に向けた取り組みを継続する。			
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	◆令和7年度、栄町公民館で実施した高齢者向けのイベントで読			

	書ボランティアを活用した本の読み聞かせを1回行った。また、9月のアルツハイマー月間にまどかぴあ図書館で認知症関連書籍を集めたコーナーを設置し、高齢者が抱える悩みを解消する取組を行った。引き続き、幅広い世代の理解が進むよう図書館と連携した取り組みを進めていく。	
C 評価		
推進委員会 評価		
検討が 必要な事項		
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	1 あらゆる世代の読書の推進			
施策	(6) 全世代共通			
施策の方向性	市民の読書意欲を高めるため、市と図書館が連携し、これまでの広報活動に加え、インターネット及びSNSを活用した情報発信に取り組み、市民の主体的な読書を支援していきます。			
主な取組	①読書活動の促進			
	②本の紹介			
	③情報発信の強化			
成果指標	市民の図書館の新規利用登録者数	策定時点	目標値(R9)	
		1,458人	1,800人	
D 令和7年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	レファレンスサービスの充実	データベース件数	136件	130件
	特集コーナーの充実	テーマ数	180件	160件
	ホームページやSNS等を活用した情報発信	年間発信回数	293回	95回
主な取組の実施状況及び今後の方針	①読書活動の促進		達成状況	
	◆図書館ホームページに掲載していたレファレンスデータを国立国会図書館レファレンス協同データベースへ移行した。また、新たに10件の事例を追加し、136件となった。 <u>国立国会図書館向けデジタル化資料送信サービスの登録館となり、絶版書籍など入手困難な書籍を専用端末で確認できるサービスを1月から開始した。</u>		②期待どおり	
	◆まどかぴあ図書館において、恒例の「図書館へようこ!!」を開催し、4,315人を集めた。また、「館内特集×図書館おみくじ」を読書週間事業のひとつとして実施。普段読まないような本を手にとってもらえるようおすすめの本のジャンルを記載したおみくじは、当初の準備数では不足したため、倍以上作成するなど好評であった。			
	◆読書手帳事業のため、10月より貸出中の資料情報を印刷できる読書シール機を導入した。広報もかねて読書ノート製作のワークショップを実施した。リピーターの増加につながっている。			
	②本の紹介		達成状況	
◆まどかぴあ図書館では、月替わりで担当者を決め、館内の複数箇所でテーマ別の特集コーナーを組んだ。心のふるさと館で行う企画や大野城市が取り組んでいる施策など市に関連する特集も行い、関心を高めることにつながった。情報収集を引き続き進めながら、利用者の選書につながる魅力的な特集となるよう工夫に努めていく。		②期待どおり		
◆まどかぴあ図書館において、学校などへのセット配本とコメダ				

	珈琲など店舗の選書支援、また館内特集コーナーでの多様な資料提供により、市内各所に読書の場を広げた。今後も選書支援に向けた積極的な対応と、特集コーナーの活用を継続していく。	
	③情報発信の強化	達成状況
	◆まどかぴあ図書館において、ホームページ（186回）とインスタグラム（107回）を活用し、利用案内やイベント情報の発信に努めた。今後も定期的な更新を行い、利用者により分かりやすい広報に向けた工夫を行っていく。 ◆まどかぴあ図書館において、年6回、「パララ」を1,500部発行し、書評や新サービスなどの情報を周知した。パララで紹介した資料の予約が増えるなど、利用促進に繋がっているため、今後も多くの人に手に取ってもらえるよう、内容や見出しの工夫を継続していく。 ◆まどかぴあ図書館において、まどかぴあ情報誌「アテナ」に毎月イベント情報を掲載するとともに、デジタルサイネージも活用して情報を発信した。アテナの記事をきっかけにイベントの問い合わせが増えるなどの効果が確認できたため、今後も利用者の目を引く、わかりやすい記事で広報を継続していく。 ◆まどかぴあ図書館において、市と連携し、同和推進強化月間など年間6回の特集コーナーを設置して関連資料を発信した。今後も引き続き連携し情報を発信していく。 ◆市報で「わたしと本」をテーマに、市に関わりのある方に計2回執筆してもらい、市民の読書への関心を高める機会とした。今後も「わたしと本」の掲載を継続するとともに、紹介された本をまどかぴあ図書館でPRし、読書推進に繋げていく。	①効果が期待以上 ※目標を超えてホームページやSNS等を活用して情報を発信したことから、期待以上とした。
C 評価		
推進委員会 評価		
検討が 必要な事項		
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	2 読書に親しむ環境づくり			
施策	(1) 身近な読書活動の場の充実			
施策の方向性	これまで読書に興味のなかった市民や図書館を利用できなかった市民も、気軽に読書を楽しめる環境の整備に取り組みます。そのため、図書館だけでなく市内の諸施設との連携を深め、地域の読書の場のあり方を見直すとともに、それぞれの魅力を高め、効果的な読書推進を図ります。			
主な取組	①図書館の充実			
	②学校図書室の充実			
	③地域貸出文庫の充実			
	④コミュニティセンターのコーナー充実			
	⑤気軽に読書・調べ学習ができる場の充実			
	⑥移動図書館の活用促進			
	⑦本を届けるサービスの実施			
	⑧イベントの実施			
	⑨電子図書館サービスの導入・運用			
成果指標	市民の図書館の新規利用登録者数	策定時点	目標値(R9)	
		1,458人	1,800人	
D 令和7年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	地域貸出文庫の図書資料の充実	年間購入冊数	1,876冊	1,400冊
	コミュニティセンターの図書資料の充実	年間新規蔵書数	1,575冊	100冊
	移動図書館のイベント等への出張	年間出張回数	1回	1回
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	①図書館の充実		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、誰もが利用しやすいよう、セルフ貸出機の導入、また図書館に来ることなく、利用者登録ができる電子利用者カードなど新サービスを令和7年10月より開始した。		②期待どおり	
	②学校図書室の充実		達成状況	
	◆学校図書室には児童生徒が自由に使える検索用パソコンがない。貸出・返却が多い時間帯は司書や図書委員による支援が難しかったため、学校により児童生徒用タブレットに検索システムを導入できる環境を整備した。今後、運用に向けた調整を進めていく。		②期待どおり ※現在、児童生徒用タブレットの入れ替えに伴い、検索システムを運用予定であるため、期待どおりとした。	
	③地域貸出文庫の充実		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、年に2度の図書交換会と3度のリサイクル本提供を実施し、文庫の団体貸出や除籍図書の利用を促進した。しかし、利用が一部の文庫に固定化する傾向が見られ、文庫総会で直接案内しても新規参加に繋がらないなど、効果的		②期待どおり	

	なPRが課題となっている。今後は全ての文庫を対象に、団体貸出や除籍図書の利用を促進する働きかけを強化するとともに、文庫活動を行うボランティア支援体制も強化していく。 ◆各公民館の地域貸出文庫に関するホームページを公開しており、今後も継続していく。なお、令和8年度より公民館ホームページがリニューアルされ、より効果的な広報ができるようになっている。 ◆持続可能な地域貸出文庫の実現のため、地域貸出文庫の管理・対応業務を指定管理者の業務に追加している。	
	④コミュニティセンターのコーナー充実	達成状況
	◆<u>コミュニティセンターにおいて、寄付やリサイクル本などを活用し、新たに1,575冊の図書を追加した。</u>なお、本の寄付をきっかけにコミュニティセンターを利用するきっかけにもつながっており、今後も図書コーナーの魅力向上を進めていく。 ◆コミュニティセンターにおいて、計99回の図書コーナーの周知を行った。アプリ風HP「すまっぼん」をはじめ、インスタグラムなどのSNSを活用した。今後は、周知内容の見直しを検討しつつ、図書コーナーを周知していく。 ◆<u>コミュニティセンターにおいて、まどかぴあ図書館が選書した本や雑誌を月20冊ロビーへ設置し、図書に触れる機会の創出につながった。</u>コミュニティセンターに子ども、大人向けのブックリストを設置するなど、今後も情報発信に努めていく。	①効果が期待以上 ※目標を超える図書資料の充実を実施したことから、期待以上とした。
	⑤気軽に読書・調べ学習ができる場の充実	達成状況
	◆心のふるさと館のふるさとラボにおいて、歴史・文化に関する図書を配架するとともに、複製資料を展示した。読書目的でない利用者也図書に関心を持つきっかけを提供し、読書への関心を向上させた。引き続きラボを開放し、誰もが気軽に図書を手に取れる場を提供していく。 ◆幼稚園・保育所、学校、親子サロン、ユープレの各施設で、利用者が常に本に触れられる環境を提供できた。今後も、読書をしやすい環境の整備、図書の更新を進めることで読書環境のさらなる充実を図るとともに、利用者への周知を進めていく。 ◆大町公園とふるかわ公園の文庫は、利用者の約8割が満足している。両公園は管理者が近くにいるため維持できているが、他公園への文庫の拡充は困難である。引き続き、両公園において子どもだけでなく多世代のニーズに応じた本を揃え、来園者に楽しんでもらえるよう運用していく。 ◆高架下多目的施設への読書スペース設置は、R7年度において建設段階である。作業は順調に進んでおり、施設整備が完了した後、速やかに読書スペースを設置できるよう、今後も準備に取り組んでいく。	②期待どおり

⑥移動図書館の活用促進 ◆まどかぴあ図書館において、移動図書館のイベント出張を1回実施した。事前にチラシ等でPRを行っていたこともあり、多くの子どもたちが車内の見学に訪れた。 ◆移動図書館車の巡回ステーションについて、熱中症対策としての7・8月の全ステーション30分運行への見直しを実施した。また、令和8年度の駅の返却ポストの回収開始に向けて、各ステーションの運行時間の見直しを行った。今度も各ステーションの状況に応じた見直しを行っていく。	達成状況 ②期待どおり
⑦本を届けるサービスの実施 ◆まどかぴあ図書館の予約本の郵送サービスは、郵送代金が全額利用者負担となっている影響から、開始以来一度も利用されていない。コミュニティセンターでの予約本の受け取りなど、ニーズのあるサービスを進めていく。 ◆<u>まどかぴあ図書館の予約本受け取りについて、R7年度のまどかぴあ図書館のシステム更新に合わせ、コミュニティセンターでの受け取りを開始した。以降、利用者数、貸出数ともに増加傾向にある。</u> ◆市内全てのコミュニティセンターで運用されている返却ポストは、昨年度より利用が増加し、特にまどかぴあ図書館から遠い南コミの利用が最も多かった。この増加は利便性が周知されたためと見られ、返却ポストは地域に必要とされるものである。<u>R7年度は大野城駅、白木原駅にもポストの設置を行い、白木原駅については、南コミを上回る利用があった。</u>今後は下大利駅への設置を進め、まどかぴあ図書館の利便性をさらに向上させていく。	達成状況 ①効果が期待以上 ※予約本の受取・返却場所の拡充を実施したことから、期待以上とした。
⑧イベントの実施 ◆まどかぴあ図書館において、ボランティアと連携し、赤ちゃん向けから小学生向けのおはなし会やブックトークなどのイベントを実施した。 ◆<u>コミュニティセンターにおいて、読み聞かせ会に合わせて利用団体によるロビーコンサートや国際交流協会と連携し、外国人ボランティアによる交流会を実施した。外国人による読み聞かせ会では国際交流の場の提供にもつながった。</u>普段、読書に興味がない方も他のイベントと絡めたことで、読書に触れる機会を作ることができた。	達成状況 ②期待どおり
⑨電子図書館サービスの導入・運用 ◆電子図書館の登録者数は前年より増加した。館内での電子図新刊本のPRやホームページサイトの定期的な更新を行う。また、サイトの見え方や選書コンテンツを見直し、運用改善に取り組んでいく。	達成状況 ②期待どおり

	◆市の働きかけにより、学校における電子図書館の利用は大幅に増加した。今後も魅力的な選書に努めるとともに、児童生徒と教員への周知を行っていく。	
C 評価		
推進委員会 評価		
検討が 必要な事項		
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	2 読書に親しむ環境づくり			
施策	(2) 資料の充実と効率的な活用			
施策の方向性	「大野城まどかぴあ図書館資料収集方針」及び「大野城まどかぴあ図書館資料選定基準」に基づき、各世代のニーズに応じた図書館の資料の充実を図ります。 また、図書館のリサイクル本や団体貸出を活用し、市内各施設の資料の充実に取り組みます。			
主な取組	①資料の充実			
	②団体貸出の促進			
	③図書の再活用			
成果指標	図書館の貸出冊数 (※電子図書館の貸出を含む。)	策定時点	目標値(R9)	
		783,794冊	793,000冊	
D 令和5年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	図書館でのリクエスト受付	リクエストに対して提供した割合	90.5%	90%以上
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	① 資料の充実		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館において、利用者のリクエストに対して、購入するほか、出版年が古いものや専門性が高い資料については、県内の図書館、大学、県外の図書館からの借受によって対応し、結果として約90%の高い提供率を維持した。引き続き、利用者からの要望には可能な限り応じつつ、収集基準に基づいた資料の選定と提供に努めていく。 ◆学校図書室で児童生徒や教職員から図書のリクエストを募って、予算上の制約でリクエストされた全ての本は購入できなかったが、学習につながる本やリクエストが多い本など分類のバランスを考慮して購入した。今後もリクエスト受付は継続しつつ、予算の限りから、資料の充実に努めていく。 ◆電子図書館では、ライセンスの貸出回数や期限といった条件を考慮してコンテンツを選書した。今後も引き続き、魅力ある資料を選定し、利用者の増加に繋げていく。 ◆広報誌「大野城」を電子図書館で提供した。ふるさと館でも発掘調査報告書7件の電子化を実施し、「大野城市の文化財」56集や紀要・年報を電子化し公開した。今後も、電子化した発掘調査報告書の公開を進めていく。		②期待どおり	
	②団体貸出の促進		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館からの団体貸出において、小中学校、保育所、ランドセルクラブ等への貸出件数は増加した。また、新たに購入した大型絵本9点については、定期的な利用が見られた。今後も各団体への周知を徹底すると共に、ニーズを把握し、資料		②期待どおり	

	や備品の充実を進め、適切な時期に貸出を実施していく。	
	③図書の再活用	達成状況
	◆まどかぴあ図書館では、除籍資料の優先配布と市民への配布を年3回実施した。優先配布の参加団体は増加し、配布冊数も増加した。今後も定期的なPRを行い、除籍図書の有効利用を図るため、この活動を継続して行くとともに、要望に応じて企業や団体への提供も検討していく。	②期待どおり
C 評価		
推進委員会 評価		
検討が 必要な事項		
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	2 読書に親しむ環境づくり			
施策	(3) 読書バリアフリーの推進			
施策の方向性	誰もが利用しやすい図書館を目指し、館内設備やバリアフリー資料等の充実、及び支援が必要な人に対するバリアフリーサービス、多文化サービスの拡充を図ります。また、より多くの人のサービス利用を促進するため、周知の強化を図るとともに、サービスを提供・支援する人のスキル向上に取り組んでいきます。			
主な取組	①館内設備の充実			
	②バリアフリー資料の充実			
	③バリアフリーサービスの充実			
	④多文化サービスの充実			
成果指標	バリアフリーサービスの認知度	策定時点	目標値(R9)	
		17.0%	20.0%	
D 令和7年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	バリアフリー資料の充実	バリアフリー資料の蔵書数	2,938冊	2,130冊
	外国語コーナーの充実	外国語資料の蔵書数	1,967冊	1,960冊
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	①館内設備の充実		達成状況	
	◆図書館システムの変更に伴い、10月より検索機が更新された。画面タッチによる操作とキーボード操作のどちらでも利用可能となり、パソコン操作に不慣れな人でも操作がしやすい環境を構築できた。また、レシートプリンタをすべての検索機に設置したことで、便利に利用できるようになったとの声が多かった。 ◆まどかぴあ図書館では、バリアフリー機器として、案内カウンターにループと助聴器を設置している。今後も機器貸出の周知を継続するとともに、設置を予定しているバリアフリーコーナーへの紹介を検討していく。 ◆まどかぴあ図書館において、図書を借りる際に本を入れるブックカートを、ニーズがあったため追加購入を行った。		②期待どおり	
	②バリアフリー資料の充実		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では、バリアフリー資料を積極的に収集し、大活字本について大人向けの資料に加え、児童向けの資料も購入を行った。しかし、本を配置するコーナーが手狭であることから、効果的な配置が行えていないため、令和8年度に新しい書架を設置する。今後も、資料を増やすとともに、展示スペースを改善し、資料をより分かりやすく展示できるよう工夫していく。 ◆まどかぴあ図書館では、利用者がサービスについて自由に情報		①効果が期待以上 ※目標を超える図書資料の充実を実施したことから、期待以上とした。	

	を得られるよう、県立図書館のバリアフリーサービスと大野城市作成の障がい者福祉のしおり「はばたき」を館内に設置した。今後は、これらのサービスが関係者により広く知られるよう、積極的なPR活動を展開していく。	
	③バリアフリーサービスの充実	達成状況
	◆対面朗読サービスで希望者はいなかったが、対応マニュアルの再確認を行った。今後は希望があった際に迅速に対応するため、職員間で拡大読書器やiPadなどの機器の使用法を復習しておく。 ◆まどかぴあ図書館において、視覚障がいのある人への読書支援として、「視覚障がい者用拡大読書器」を4件給付した。今後、より多くの対象者が利用できるよう周知を徹底し、読書支援ツールの給付を引き続き行っていく。 ◆手話通訳者の図書館派遣サービスは、利用者の希望に応じてまどかぴあ図書館が大野城市役所所属の手話通訳士に同席を依頼し実施する。このサービスを関係者に広く認知してもらうため、今後は効果的なPR方法を検討していく。 ◆認知症予防に関心を持つ人を対象とする「ここふるオレンジカフェ」において、読書ボランティアによる読み聞かせを実施した。今後も活動を支える読書ボランティアの紹介も続けていく。 ◆まどかぴあ図書館のバリアフリーサービスについて、各種障がい者手帳の交付時などに障がい福祉のしおりにより周知した。今後も引き続き、障がいのある人へ情報が届くよう、周知活動に取り組んでいく。	②期待どおり
	④多文化サービスの充実	達成状況
	◆まどかぴあ図書館では、洋書児童の古い資料や複本を除籍したことで昨年度より冊数が減少した。棚が狭いこともあるため、所蔵の整理や除籍を行いながら、資料の充実を進めていく。 ◆まどかぴあ図書館では、多言語版の利用案内を案内カウンターに設置している。電子図書館の多言語版利用案内はGA（外国語資料）の棚に設置しているほか、HP上でも閲覧できる。配布機会は少なかったが、外国籍の利用者への説明に役立った。今後も利用者の要望に応じて別言語の案内を迅速に提供できるよう、環境の整備を進めていく。 ◆まどかぴあ図書館において、iPadを使用した音声翻訳で日本語を話せない利用者への説明を実施した。今後、外国人の利用者が増えることが予想されるため、環境整備を引き続き進めていく。	②期待どおり

C 評価	
推進委員会 評価	
検討が 必要な事項	
A 改善	
改善結果	

P 計画の基本事項				
基本目標	3 読書ネットワークの充実			
施策	(1) まどかぴあを中心としたネットワークの推進			
施策の方向性	本の専門家である司書へ誰もが気軽に相談できる窓口を設置し、市民及び関係機関へ広く周知を行います。また、市民の読書活動を推進するために、ICTの活用等、図書館と学校、地域の連携のあり方を検討していきます。			
主な取組	①相談窓口の充実			
	②時代に即した連携のあり方の検討			
成果指標	相談窓口・レファレンス	策定時点	目標値(R9)	
	利用者満足度	-	80.0%	
D 令和7年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	相談窓口及びレファレンスサービスの活用促進	年間受付件数	8,305件	7,000件
主な取組の実施状況及び今後の方針	①相談窓口の充実		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では、レファレンスサービスの活用促進のため、学校やボランティア団体などからの依頼で出前講座を実施し、延べ10人を派遣した。昨年度対比で件数が減少していることから、団体への周知を行っていく。 ◆まどかぴあ図書館では、気軽に相談できる体制の強化のため、土日でも平日も可能な限り児童カウンターに職員を配置し読書相談に対応した。 ◆まどかぴあ図書館では、親子サロンへの団体貸出と、市内施設へのリサイクル本提供を実施した。併せて、就学前の乳幼児とその保護者へ、絵本の紹介等を行い、普段来館しない層へのまどかぴあ図書館のPRはできた。リサイクル本提供における参加団体の固定化が課題として残った。団体へ広く周知を行っていく。 ◆まどかぴあ図書館では、施設等へ年代別情報誌や団体向け利用案内を送付した結果、団体貸出の登録・更新が計90団体（新規6団体）に達した。今後も市内公共団体や福祉団体などにも引き続き利用案内を送付し、読書相談等の利用増加を図っていく。		①効果が期待以上 ※目標を超えるレファレンスサービスの受付があったことから、期待以上とした。	
	②時代に即した連携のあり方の検討		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館と学校図書室の連携では、団体貸出に向けた連携を継続している。なお、まどかぴあ図書館と学校図書のシステム連携については、R6ワーキングチームにおいて協議したが、双方に必要性が感じられなかったとの結論で、システム連携を見送っている。		②期待どおり	

C 評価	
推進委員会 評価	
検討が 必要な事項	
A 改善	
改善結果	

P 計画の基本事項				
基本目標	3 読書ネットワークの充実			
施策	(2) 読書活動を支える人の活動の活性化			
施策の方向性	学校及び保育所(園)・幼稚園等において子どもたちが、充実した読書活動が行えるように、活動を支える人材のスキルの向上を図ります。 また、読書ボランティアについては、人材の発掘及び育成を継続するとともに、活動の場の創出のほか、活動が縮小している団体等を支援する体制づくりを行い、ボランティアの活動の活性化に取り組みます。			
主な取組	①図書館司書のスキルアップ			
	②学校司書活動の充実			
	③保育士・幼稚園教諭等のスキルアップ支援			
	④読書ボランティアの育成			
	⑤読書ボランティア人材の発掘			
	⑥読書ボランティア活動の活性化			
	⑦読書ボランティアの交流の場と協力体制づくり			
成果指標	各種読書ボランティア講座の実施	策定時点	目標値(R9)	
		520人	530人	
D 令和7年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	各種読書ボランティア講座の実施	年間実施回数	5回	6回
	読書ボランティア情報交換会の実施	年間実施回数	3回	1回
主な取組の実施状況 及び 今後の方針	①図書館司書のスキルアップ		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では、スキル向上を図るため、職員にレファレンスやバリアフリー、子ども読書に関する外部研修に参加させた。今後も引き続き積極的な参加を促し、職員のスキルアップを図っていく。		②期待どおり	
	②学校司書活動の充実		達成状況	
	◆学校司書を対象に連携部会を2回、図書司書研修を2回、新規採用向けのシステム操作研修を2回実施した。司書の要望内容も検討し、今後も状況に応じて開催を調整していく。		②期待どおり	
	◆学校司書や司書教諭の外部研修参加を促進するため、県からの研修に関する情報をC4thで随時通知している。今後も参加を促すため、研修や講座の情報を継続して提供していく。			
	◆図書館・小中学校図書室連携部会は、年2回実施した。しかし、協議内容が希薄化し、大半が学校図書司書間の意見交換の場となっている点が課題であり、部会の在り方を検討していく。			
	◆まどかぴあ図書館では、学校ボランティアと連携するため、まどかぴあ図書館主催の講座案内送付や選書・団体貸出などの支援を実施した。しかし、各校の活動実態が異なるため、講座の参加者数や団体貸出の利用に偏りが見られた。今後も学校ボラ			

	ンティアに対し、必要な支援等を継続していく。	
	③保育士・幼稚園教諭等のスキルアップ支援	達成状況
	◆令和7年度は、5名の職員が読み聞かせに関する研修に参加した。参加できなかった園では『他の研修を優先した』、『人員配置上研修に参加する余裕がない』などの理由が見られた。一方で、普段の保育における読み聞かせの習熟により、『研修は不要』とする意見も見られた。今後は、オンライン開催など、参加しやすい研修内容を検討し、積極的な参加を促したい。	②期待どおり
	④読書ボランティアの育成	達成状況
	◆全2回の読み聞かせボランティア入門講座（月曜コースと土曜コース）、全1回のスキルアップ講座（アニメーション）、の計2種類を実施した。スキルアップ講座は回数を2回から1回に見直したが、受講者の満足度が高かった。今後の方針として、語りの講座は、参加者数が少ない状況であるため、内容の見直しを行って、実施していく。 ◆まどかぴあ図書館では、実技指導やボランティア同士の仲間作りといった側面を重視し、まどかぴあ図書館の各種研修（2種類、全5回）を全て対面方式で実施した。実技、グループワークといった研修内容が多いため、必要に応じて、オンライン化を検討していく。 ◆まどかぴあ図書館では、講座やイベントの情報を市内小中学校、公民館、コミュニティセンターへチラシで送るとともに、ホームページやInstagramでも周知した。イベントの際には所属ボランティアにも案内しており、この情報提供が継続的なイベント等への参加に繋がった。今後も同様の周知活動を続けていく。	②期待どおり ※各種読書ボランティア講座の年間実施回数が目標値を下回ったが、目標6回に対し、5回実施していることから、ほぼ期待どおりとした。
	⑤読書ボランティア人材の発掘	達成状況
	◆読書ボランティアを募集するため、読み聞かせボランティア入門講座で直接参加を呼びかけるとともに、市のホームページに募集情報を掲載し、周知活動を展開した。今後もこれらの活動を継続していく。 ◆まどかぴあ図書館では、読書ボランティアを確保するため、入門講座を開催するとともに、講座の案内を全戸配布される情報誌「アテナ」に載せることで、普段まどかぴあ図書館を利用しない市民層にも情報を届け、講座の受講とボランティア活動への参加を幅広く促した。今後はSNSなどの新たな媒体も活用し、人員の確保に努めていく。	②期待どおり

	⑥読書ボランティア活動の活性化	達成状況
	◆読書ボランティアの募集情報「読書ボランティアへのおさそい」により読書ボランティア団体を周知するとともに、読書ボランティアを紹介し、コミュニティセンターでの絵本のおはなし会を開催した。今後も市に登録されている読書ボランティアの紹介を継続していく。 ◆<u>令和7年度に各読書ボランティア団体が抱える課題に対応し、全体での問題解決を目的として、相互支援と連携体制を築くための読書ボランティアネットワークを設立した。このネットワークを通じて、各団体の成功事例や最新の活動情報を共有することで、問題の解決や改善につながっており、今後も協力体制を強化しながら課題に対処していく。</u> ◆読み聞かせ等を実施した読書ボランティアに対し、まどばらポイントを付与した。今後もこの取り組みを継続していく。 ◆読書ボランティアが参加するイベントの場において、本計画を周知した。今後も継続的に本計画を周知していく。	②期待どおり
	⑦読書ボランティアの交流の場と協力体制づくり	達成状況
	◆読書ボランティアネットワーク設立後、情報交換会、スキルアップ講座、活動計画会議を開催し、年3回の活動を行った。すべての活動の中で、ボランティア団体同士の交流が行われ、情報交換を行った。今後はボランティア団体同士でのより良い協力体制が構築されるよう活動を継続していく。	①効果が期待以上 ※目標値を超えて情報交換を実施したことから、期待以上とした。
C 評価		
推進委員会 評価		
検討が 必要な事項		
A 改善		
改善結果		

P 計画の基本事項				
基本目標	3 読書ネットワークの充実			
施策	(3) 市民交流の創出			
施策の方向性	読書を通じて、人と人との交流が生まれる取組を実施していきます。			
主な取組	①市民が参加できるイベント等の実施			
成果指標	イベントの参加者数	策定時点	目標値(R9)	
		4,828人	6,320人	
D 令和7年度(具体的な事業実施状況調査より)				
評価指標	重点事業	指標	実績(R7)	目標値(R7)
評価指標	イベントの実施	年間実施回数	164回	122回
主な取組の 実施状況 及び 今後の方針	①市民が参加できるイベント等の実施		達成状況	
	◆まどかぴあ図書館では、定例のおはなし会をはじめ、夏休みイベントなど様々な催しを実施した。今後はイベント内容の見直し含め、参加者増につながるイベントを検討していく。		①効果が期待以上 ※目標を超えてイベントを実施したことから、期待以上とした。	
	◆ふるさと館がにぎわいづくり事業として実施した館内周遊イベント(合計参加者数10,277名)では、ふるさとラボを起点とすることが多かった。春季特別展「映画「もののけ姫」から学ぶ考古学」の開催期間には、まどかぴあ図書館で特集コーナーを設置した。また、読書週間の期間において、まどかぴあ図書館の利用者を対象にここふるショップでドリンク50円割引を実施した。今後も連携強化を図り読書を通じた販わい創出を目指していく。			
	◆コミュニティセンターにおいて、読み聞かせ会に合わせて利用団体によるロビーコンサートや国際交流協会と連携し、外国人ボランティアによる交流会を実施した。外国人による読み聞かせ会では国際交流の場の提供にもつながった。普段、読書に興味がない方も他のイベントと絡めたことで、読書に触れる機会を作ることができた。今後も他団体との連携したイベントを検討していく。			
	◆西鉄高架事業の一環として西鉄下大利駅壁面を活用し本をテーマにした本の紹介やコミュニケーションコーナーのある「大野城わくわくつながる本棚」を設置。運営は、 <u>県立筑紫中央高校の生徒と市の読書ボランティア有志が担う。</u>			
C 評価				
推進委員会 評価				
検討が 必要な事項				
A 改善				
改善結果				

